

第2学年 社会科 学習指導案

日時 平成16年10月13日(水) 5校時

学級 2年 (3名)

指導者 佐々木 幸男

1. 単元名 現代の日本と世界 ~ 第1次世界大戦 ~

2. 単元について

(1) 教材について

本単元では、学習指導要領の歴史的分野の内容(5)近現代の日本と世界における「才 第1次世界大戦前後の国際情勢のあらましを理解させるとともに、民族運動の高まり、国際平和への努力、この時期のわが国の国民の政治的自覚の高まりに気付かせる。」に基づいて設定されたものである。

ここでは、世界の動きとわが国の関連を重点的にとらえさせるようにし、大戦の背景、日本の参戦、ロシア革命、戦後の国際協調の動きに重点を置く。その際、中国や朝鮮における民族運動の高まりや、国際連盟の設立や軍縮条約の締結に代表される国際平和への努力に気付かせる。

(2) 生徒について

生徒3人とも社会科が好きである。授業中の発言は多く、調べ学習では積極的な授業態度で調べ、模造紙やプレゼンテーションにまとめた。分からない点をどんどん発言する生徒がいて、ダイナミックな授業となることも多い。歴史的事象についての知識はあまり多くない。ほとんどは大河ドラマやテレビ番組からの知識である。この単元で知りたいこと、分かってほしいことのアンケートでは「戦闘場面のこと、兵器のこと、ヒトラーのこと」という結果であった。小学校時代には「ライオンの涙」を劇で発表するなど戦争や平和に対する思い入れが強い生徒達である。

(3) 指導の構想

戦争が勇気ある兵士達の戦いから市民と平民を区別しない大量殺人・大量破壊、国力の全てを動員する総力戦へと劇的に変わったのが第1次世界大戦である。その悲惨さを当時の映像を交え印象づけたい。またその後の平和を求める世界の動きを丁寧にとらえ、現代の課題にもつながるこれらの取り組みについての認識を深めさせたい。アジアの民族運動の高まりでは、ガンジーなど、具体的な人物にスポットを当て、生徒の心を揺り動かしながら指導を進めていきたい。

3. 単元の目標

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

- ・第一次世界大戦前後の出来事について、第一次世界大戦を中心にまとめようとする。

(2) 社会的な思考・判断

- ・国際情勢の変化や国際協調の動きが出てきた理由について、説明することができる。
- ・第一次世界大戦がわが国にどのような影響を与えたのかについて、さまざまな歴史的事象を因果関係の形で構造的に表すことができる。
- ・わが国における社会運動の高まりや解放運動、婦人運動が行われるようになった理由について説明することができる。

(3) 資料活用の技能・表現

- ・第一次世界大戦がわが国にどのような影響を与えたのかについて、「東アジアとの関係」「経済的な発展」「政治的な意識の高まり」「文化や教育の普及」などをキーワードに、矢印などを使用して構造化することができる。

(4) 社会的事象についての知識・理解

- ・第一次世界大戦後、中国や朝鮮での反日運動の高まりの理由について理解する。
- ・第一次世界大戦前後のわが国の政治で、わが国最初の政党内閣ができた理由について理解する。

4. 単元の指導計画 (7時間扱い)

単元オリエンテーション.....	0.5時間
総力戦の衝撃.....	2時間
連合国の一員として.....	1時間
不戦の誓い.....	1時間(本時)
わき上がる独立マンセーの声.....	1時間
大正デモクラシー.....	1時間
まとめと評価問題.....	0.5時間

5. 本時の指導

(1) 目標

- ・連合国の反撃やドイツの革命で、大戦が終結したことや、その後作られたベルサイユ体制は戦勝国の利害の上に成り立っていたことを理解できる。
- ・大戦後作られた国際連盟などの意義やその限界を考えることができる。

(2) 指導の構想 (本校研究テーマとの関わり)

導入の工夫と解決の見通しを持たせる工夫について以下のように構想した。

本時の導入では戦争の被害とその後の戦争を無くする努力を提示する。しかしパリ不戦条約に代表される不戦の誓いは第2次世界大戦で露と消えた。この認識のギャップを課題解決の意欲向上につなげたい。

解決の見通しは課題設定の工夫で持たせたい。本時の課題は「ベルサイユ条約・国際連盟が次の戦争を防げなかったのはなぜか」である。理由を問う課題設定で、見通しを持たせたい。

また、指導過程の工夫では、単元オリエンテーションで出された興味がある部分・疑問点を課題設定に生かすということがある。本時の部分では「なぜドイツは戦争に負けたのか」が2人あった。そのまま学習課題にはできないが、授業の中で個人課題の解決につなげていきたい。

「つぶやきによる検証」のために、今回はビデオを生徒に向けて撮影し、ねらった反応があるか・生徒の表情に変化があるか、検証していきたい。

(3) 本時の具体の評価規準

	社会的思考・判断	社会的事象に関する知識・理解
具体の評価規準 (Bの状況の姿)	戦勝国、敗戦国の立場からそれぞれベルサイユ体制について考察することができ、多角的にベルサイユ体制を評価できる。(評価)	第1次世界大戦後、国際協調と民主主義の時代になったことを説明でき、ベルサイユ条約や国際連盟の課題について説明できる。(評価)
Aの状況の具体的姿	戦勝国、敗戦国、日本、中国、アメリカの立場から、ベルサイユ体制について考察することができる。	第一次世界大戦の後、国際協調と民主主義の時代になってきたことについて因果関係の形で説明することができるとともに、ベルサイユ条約や国際連盟の課題などについても説明できる。
Cの状況への手だて	一つひとつの国の立場をそれぞれ考えさせ、国によって良かったことと悪かったことが違うことを指摘させる。	第一次世界大戦後の人々の願い、それを受け手の取り組みを順番に追い、まとめさせる。ベルサイユ条約や国際連盟について書かれている記述を探させ、課題として書かれている部分をとらえさせる。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点
見 つ け る 15 分	1．前時既習事項について5問テストを行い確認する 2．第1次大戦の被害の様子を知る。 3．その後の取り組みと第2次世界大戦が起こったことを確認する。 4．本時の課題を確認する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説1 戦争を2度と起こさないと取り組んだのに防げなかったことに認識を覆される。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の取り組みの意義・成果を確認しながら、課題につなげる。
追 究 す る 30 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ベルサイユ条約、国際連盟が次の戦争を防げなかったのはどこに欠陥があったからか。 </div> 5．課題解決の見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・条約に不備はなかったか。 ・国際連盟は力がなかったのではないか。 6．条約、国際連盟について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・パリ講和会議での各国の主張 ・ベルサイユ条約の内容 ・国際連盟の内容と参加国 ・国際連合との比較 7．調べた内容を発表し、課題についてまとめる。 8．ベルサイユ条約と国際連盟について教師が補足する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説2 既習事項を思い出しながら課題解決の見通しをもつ。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説3 自作資料を用い、自力解決の時間を十分保障する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自作資料 (評価) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 、 について、生徒のノート記述、発表で評価 </div>
ま と め 5 分	9．授業のまとめをする。 10．次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、わからなかったところ、新たな疑問をノートに書く。

